

BRAHMS EIN DEUTSCHES REQUIEM

ブラームス ドイツ・レクイエム Op.26 (2台ピアノ版)

Vocal Consort
Tokyo

28
人の
精鋭

圧倒的な表現力

ヴォーカル・コンソート東京 第7回演奏会

指揮 四野見 和敏

ソプラノ 佐藤 悠子 バリトン 関 秀俊

ピアノ 松原 賢司 小嶋 千尋

2018年 6月22日(金) 19:00 開演 (18:30開場)
渋谷区文化総合センター大和田4F さくらホール 渋谷駅 徒歩 5 分

【 チ ケ ッ ト 】 一般前売 ¥3,500 / 当日 ¥4,000 学生 ¥3,000 (要学生証提示)

【 お 申 し 込 み 】 チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:115044)

当団ホームページContact Us(<http://vctokyo.jp/contact.html>)

【お問い合わせ】 TEL:090-3982-4055 E-mail: noan@vctokyo.jp

主催：一般社団法人 アートフォーラムNOAN / 後援：公益財団法人 日独協会 株式会社 ハンナ

<http://vctokyo.jp/>



Vocal Consort Tokyo

私たちが歌う理由

愛する人との別離、理不尽な災害、病気による肉体的、精神的な苦痛など、人は人生において様々な苦悩と向き合います。どんな人間でも、潜在的に悲しみを抱えながら生きているのではないのでしょうか。つらいとき、苦しいとき何を信じて生きればよいのだろうか？悲しみや孤独を背負うとは一体何であろうか？悲嘆に暮れる人々に対しブラームスは、《悲しむ人々は、幸いである》”Selig sind, die da Leid tragen”, という聖句を投げかけます。「ドイツ・レクイエム」の中心テーマです。彼の音楽は「悲しみ」の中にいる人に温かな灯りをともし、慰めや新しい世界への希望を与えてくれます。曲は宗教の枠を超えて人間の生や死について見つめ直し、後ろ向きの悲しみより前向きな自己再生を促します。私たちヴォーカル・コンソート東京は、悲しみの中にいる人々に、たとえどんな小さな希望であってもそれを見い出せるように、この曲を演奏します。

「涙と共に種をまく人は、喜びをもって刈入れるでしょう。」(ドイツ・レクイエム 第1曲より一詩篇 126:5)

Vocal Consort Tokyo(ヴォーカル・コンソート東京)

指揮者の四野見 和敏が2014年2月に設立した、プロフェッショナルな合唱団。オーディションで選ばれた若手声楽家28名で編成されている。ヨーロッパの室内合唱団を手本に、バロックからロマン派、そして近現代のアカペラの合唱曲をレパートリーに持つ。様々な時代の作品に対応するために、その時代が求める時代様式や歌唱法の統一に重点を置いている。この合唱団の響きは Homogenität (同質性・均質性) があり、澄んだ柔らかな音色を持っている。一昨年はドイツのドレスデン室内合唱団のメンバーを招聘し、世界に通用する室内合唱団を目指している。



ヴォーカル・コンソート東京 出演メンバー

- [ソプラノ] 池田 真紀 石井 実香 金成 佳枝 佐藤 悠子 高山 ゆみこ 長尾 良子
村井 香子 森川 郁子 安川 みく 渡辺 藍子
[アルト] 小此木 里佳 古賀 裕子 小松 奈津子 佐藤 智子 新明 裕子 高橋 幸恵
中田 暁子 横町 あゆみ
[テノール] 荒木 俊雅 小沼 俊太郎 曾部 遼平 堀越 尊雅 町村 あきら
[バス] 阿部 大輔 磯谷 大樹 木村 雄太 白井 智朗 關 秀俊

ピアノ: 松原 賢司 小嶋 千尋



音楽監督・指揮 四野見 和敏

東京音楽大学卒業後、指揮をウィーン国立音楽大学指揮科教授エステルライヒャー、湯浅勇治に師事する。1999年ウィーン・マイスタークラスの最優秀指揮コンサートでウィーン・プロアルテ・オーケストラを指揮。好評を博す。ハンブルクに留学し、ハンブルク歌劇場合唱団のもとで数多くのオペラ合唱の研鑽を積む。またハンブルク音楽大学で教会音楽指揮法及び演奏法を専攻すると共に、デトモルト音楽大学では、ライプツィヒ聖トーマス教会楽長ビラー氏に師事し、バッハ作品の指揮を学ぶ。これまでに東京二期会、関西二期会等で副指揮・合唱指揮を務める。



ソプラノ独唱: 佐藤 悠子

国立音楽大学声楽学科卒業。フェリス女学院大学大学院声楽専攻を首席で修了し三宅賞受賞。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。市川市文化会館新人オーディション最優秀受賞。山本康童、田中淑恵、佐藤峰子、平松英子、佐竹由美の各氏に師事。オペラでは「魔笛」パミーナ、童子、「フィガロの結婚」スザンナ、花娘等を演じる。現在は宗教作品の独唱を主に研究し、ソリストとしてヴィヴァルディ「グローリア」ヘンデル「メサイア」バッハ「マタイ受難曲」「口短調ミサ」モーツァルト「ハ短調ミサ」「戴冠ミサ」「証聖者の荘厳な晩歌」「レクイエム」シューベルト「ミサ曲ト長調」等に出演。ヴォーカルコンソート東京メンバー。二期会会員。



バリトン独唱: 關 秀俊

武蔵野音楽大学声楽科卒業。田口宗明、今仲幸雄、フィリップ・フッテンロッハー(Philippe Huttenlocher)、橋本周子(聖グレゴリオの家)、ポール・ヒリヤー(Paul Hillier)、ゴデーハルト・ヨッピヒ(Godehard Joppich)の各氏に師事。室内合唱団 日唱、東京混声合唱団、バッハ・コレギウム・ジャパンを経て渡独。1996年から2013年まで、ペーター・ノイマン率いるケルン室内合唱団(Kölner Kammerchor)に在籍し、古楽器アンサンブル(Collegium Cartusianum)と協奏し、主にバロック期の宗教声楽作品を歌ってきた。現在、Vocal Consort Tokyoの一員として活躍中。